

『STUDY GUIDE 2018』

2011 年度以降 学部第 1 学年時入学者適用

(2018 年 3 月発行 冊子表紙薄紫色)

正 誤 表

■ 冊子『CAMPUS GUIDE2018 あみたーば』(キャンパスライフや学籍・学費等)については、最新年発行の『STUDY GUIDE』を参照してください。

■ 最新のお知らせ・変更事項等は B-net に掲出しますので、定期的に確認してください。

2021 年 1 月現在

巻頭 佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的(以下に差し替えてください)

佛教大学の建学の理念ならびに使命と目的

佛教大学は、学則第 1 条に示す通り仏教精神を建学の理念とし、大学の責務である「人材養成」を目的とし、「教育」「研究」「社会貢献」の三領域において、仏教精神に基づく多様な活動を行いながら、世界文化の向上と人類福祉の増進に貢献することを使命として、これを達成するために相応しい教育研究組織を設置しています。

学則第 1 条

「本学は学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に基き、仏教精神により人格識見高邁にして、活動力ある人物の養成を目的とし、世界文化の向上、人類福祉の増進に貢献することを使命とする」

仏教精神

本学が建学の理念としている仏教精神とは、仏教を開いたゴータマ・ブッダ(釈尊)と浄土宗を開いた法然上人とに共通する生き方と考え方を指します。釈尊は「私とは何か」「私はどう生きるか」そして「私は自分自身に何を期待できるのか」つまり私の生きる道=人の生きる道を求めて修行し、その道を成就して、われわれに人として歩むべき道を説き示したのです。一方、法然上人は、末法とも呼ばれた混乱の続く不安定な時代にあって、生きることに苦しみ、天災地変や戦乱の苦しみに喘ぐ人々の中で、大乘仏教に私の生きる道=人の生きる道を求め、自己の愚かさを自覚し、念仏の道を体得し、すべての人が等しく導かれる道を説いたのです。ブッダによってはじめられ、法然上人によって受け継がれた生き様と考え方こそ、「転識得智」なのです。それは現実の生き方の中で、常に己自身のあり方をしっかりと見つめながら、学んできた知識を人生のさまざまな場において何を為すべきか判断する力、実行してゆく力、すなわち生きる力へと転換してゆける智慧を得ることなのです。この二人に共通する生き方こそが仏教精神に他なりません。この精神にのっとり、自らも生かされている社会において、他に幸せを分かち与え、他の苦をぬぐい去る慈悲のこころをもって、自らが生きていることを活かしてゆける人材の養成を目指します。

p,37 学校感染症の種類(下線部の訂正・追加)

学校保健安全法施行規則第18条・19条に基づき、下表の学校感染症に罹患した場合は、医師の指示に従い静養に努めてください。

治癒後、医師の診断書等を学生支援課へ提出し、「欠席事由確認証（感染症）」を受けることで、公欠と同様の扱いとします。

但し第3種、その他の感染症に関しては、医師より登校禁止を指示された場合に限りです。

分類	感染症の種類
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、 <u>重症急性呼吸器症候群（SARS）、中東呼吸器症候群（MERS）、特定鳥インフルエンザ、指定感染症</u>
第2種	インフルエンザ（鳥インフルエンザ（H5N1）を除く）、百日咳、麻疹（はしか）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、風しん（三日はしか）、水痘（水ぼうそう）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎（はやり目）、急性出血性結膜炎、その他の感染症 [溶連菌感染症（しょうこう熱）、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑（りんご病）、ヘルパンギーナ（夏かぜ）、マイコプラズマ肺炎、感染性胃腸炎、流行性嘔吐下痢症など]

以上